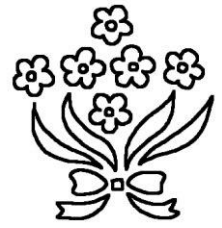


相談室だより



平成28年度 12/1月号

南葛西第二小学校校長 落合淳一
発行：スクールカウンセラー 竹埜未紗

もうすぐ12月です。みなさんは、今年1年を振り返り、どんなことを思い出しますか？スクールカウンセラーは、黒猫のことが頭にかびました。ある夏の暑い日に、家の玄関の前で、ヨタヨタと今にも倒れそうな足取りで歩く、毛がボサボサの黒猫を見かけました。足を怪我しており、玄関に座りこみ、しばらく休み、そしていなくなりました。それから、毎日のように、スクールカウンセラーの家に、その黒猫は遊びにくるようになりました。朝5時になると、玄関の前で、ミャーミャーとないて、朝ごはんを待つようになりました。そして今、この黒猫は、わが家で一緒に暮らしています。黒猫の『ごまり』は、実は、もうおばあさん猫。病院で治療し、足はよくなりました。しかし新しい生活環境や人に慣れるまで、時間がかかりました。近づくとウーウーと威嚇しました。やっぱり家の外で暮らす方が幸せなのではないか、と何度も考えましたが、一緒に生活するようになって4か月、ようやく、ソファで、人の隣りで眠るようになりました。つい数日前、ごまりが長い間生活してきた外の世界、家の外に出してみました。ごまりは、家の中をかけ足で戻ってきました。これからは一緒に生活したいという意思表示と受け取り、今でも、ごまりにとって居心地の良い環境づくりに奮闘中です！

相談室が開いている日 毎週金曜日



2日、9日、16日



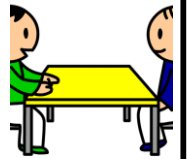
13日、20日(12:15-)、27日

相談室

場所：小学校の2階

開室日時：金曜日 午前8:45～午後4:00

スクールカウンセラー 竹埜未紗



児童のみなさんへ

「ほかのお友達がいないときにスクールカウンセラーとだけお話ししたい」というときには、20分休み（10時20分～10時40分）と昼休み（1時～1時15分）に相談室に直接来てください。その日にすぐにお話しできるときもあります。または相談の日を約束することもできます。

保護者の皆様へ

スクールカウンセラーは、児童の相談はもちろん、授業中のクラス巡回、そして保護者に対する助言・援助も行います。いざ相談するとなると、とても勇気がいるものだと思いますが、相談内容については秘密を守りますので、安心してお話しください。子供が不安を抱えている、学校の中でトラブルがある、不登校やいじめ、集団不適応、発達の遅れ、学習の遅れ。それほど重大な問題でなくても、引っ込み思案であるとか、乱暴であるといった子供の性格や行動についての気がかりな点、きょうだい親子など家族関係の悩み、子育ての不安がある…など、どのようなことでもお気軽にご相談ください。話されたことをもとに、授業中の様子を見てお伝えしたり、本人と面接して気付いたことをお伝えすることもできます。また、ご希望がある場合には、小学生の子供の心や問題行動に関する相談の公的機関の情報を提供することができます。

ご相談の際には、相談室を直接訪ねることも可能ですが、事前にご予約することをおすすめします。学校から「スクールカウンセラーによる面談のご案内」を配布しております。お手紙に記載されている手続きの通り、予約してください。また学校ホームページの【教育活動＞教育相談室】にも「スクールカウンセラーによる面談のご案内」を掲載しておりますので、こちらを印刷の上ご予約ください。

Q:小学生の今、子ども達に必要なことは？

A:それは勤勉さです。 By 発達心理学者 H. エリクソン



「勤勉さ」と聞いて、パッと思い浮かぶのは、真面目に、ひとりでコツコツとガリ勉すること、言われた通りの状態をじっと守っていることではないでしょうか。ところがそれは、勤勉であることとは違います。**勤勉さとは、仲間の中で何かの役割を果たそうと努める姿勢**を言います。集団の中で何が果たせるか、自分の役割を担おうと積極的に参加していく態度があるかどうか、ということです。

私たちは、他人と隔絶した場所で、ひとりで何かに取り組むことを勤勉だと思いがちです。しかし一人でどれだけ漢字や英単語を覚えても、それは「勤勉」とは言えません。覚えた文字や語彙を使い、心を込めて手紙を書く、誰かに何かを伝えるためにいい文章表現ができるようになる、ということが一番大事です。漢字、英単語を覚えるということの先に手紙や会話があり、それが社会参加へとつながったとき、初めて本当の勤勉らしきものになるのです。

「勤勉であること」の本質を、はじめてこのように指摘したのは、アメリカの発達心理学者 H・エリクソンです。子どもが社会の仲間入りをするために、その準備として大切なことの一つは、友達と上手に遊べるようになることと言われています。「ひとりが好き」という子ども達もいますね。それはそれでいいのです。南二小では、こども祭りや全校遠足、エンジョイタイム、授業でも班での活動など、自然と仲間と過ごす時間がたくさんあります。仲間と一緒に発見したり、話し合ったり、何かを作ったり、という共同作業の中で、自分の分担や役割をのびのびとこなすことで、「勤勉さ」を身につけます。

それができるようになるには、その前段階として、十分に親に愛され、認められることで、自分に自信を持ち、他者に共感できる感性が育ちつつあることが前提となります。こうした発達段階を踏み、**友達との共同作業、遊びあうことを通じて、子どもたちは社会に出て、仕事をする時にも通用する、協調性、共感性、競争心、そして勤勉さを身につけていく**と言われています。人はひとりだけで成長することはできません。人との共同作業や遊びを通して、自分の分担や役割をこなし、その上で自分自身に対する「肯定感」をもった子どもは、もちろん、必要なときはひとりで勉強することも、ひとりでスポーツの練習に取り組むことも、きちんとできるようになります。そして、一人では乗り越えられない、というときには親や友達に相談したり、弱みを見せて、頼ったりすることもできるのです。**孤独に何かに取り組むこともできるけれど、けっして孤立はしないのです。**

